

ラグビー憲章5つの訓徳

Rugby Charter の Introduction に次のようにかかれています。

Rugby embraces a number of social and emotional concepts such as courage, loyalty, sportsmanship, discipline and teamwork.

ラグビー憲章第二世は、抜本的に書き直されて、重要事項の羅列されたものから、身近で中身の深いものになりました。憲章の総括的考察については、西川ラグビーコラム「[ラグビー憲章と moderate and reasonable](#)」2007/05/27 を参照してください。

前文はラグビー賛歌と言うべきものです。5つの要素をまず正確に理解することが「ラグビーの勧め」として大切なことです。

1. courage

courage の概念は次のようにとらえるべきです。

readiness to face & capacity to endure danger, inherent freedom from fear or from its disturbing effects,

危険に耐え、恐れや悪い結果に打ち勝つ面構えであり能力

take courage 元気をだす、lose courage 落胆するとなります。

have a courage of one's conviction 所信を断行する場合であり、

take one's courage in both hands 勇敢にやる、大胆に敢行する

2. loyalty

loyal 忠義な、忠実な

faithful to に忠実であるということは信頼のできるということです。

true to allegiance 忠順の意志を示し、devoted to the legitimate sovereign 合法的な正当な主君への奉仕忠誠ということになります。

3. sportsmanship

sport 単数形は fun or diversion 遊び、気晴らし、

a pastime of an outdoor or athletic kind、慰み

競技会の意味にも使われます。

sportsman は person fond of hunting & such as 狩猟などを好む人であり、そのような人は、好むだけではなく、マナーを大切にしたのです。すなわち、

person who regards life as a game in which his opponents must be allowed fair play

そこから sportsmanlike スポーツマンらしいとか、sportsmanship という概念が定着するのです。

スポーツでは be allowed fair play フェアプレーが斟酌され、勝つことに全力を尽くす中にも、勝利至上主義に陥って楽しむことを忘れてはならないのです。

4. discipline

規律と訳すだけでは要点が不明確で、訓練、懲戒という意味にも使われる言葉です。

training 訓練 : of the kind that produces self-control, orderliness, obedience & capacity for co-operation

規律は組織体の基盤であり維持になくてはならないものです。規律は訓練によって達成されるものです。

上記1項に掲げられた「勇氣」は courage without discipline であってはならないのであって、ラグビーが蛮勇者の遊びでなく紳士のスポーツと言われる所以です。

5. teamwork

ラグビー団体競技です。多人数チーム競技ですから一段と teamwork が重要です。競技はチームが一体となつての協同作業で協力度が妙味となり勝敗を左右します。プレーヤーはチームのために for the team 全力で戦うことに生き甲斐を見だし、精神を象徴するチームの旗を揚げ、エンブレムを胸にして誇りを固め、声高く凱歌を歌って健闘を誓うのです。

まとめ

憲章の Introduction に掲げられた文はラグビー5つの訓徳は、訓教えであり徳目です。それらはラグビーから得られるもので、「ラグビーの勧め」の根拠となるものです。存在価値を示し、その上に立っている存在基盤としてなくてはならないものです。ルールに書かれていると言われるラグビー精神を、日常的生活的な文字にしたものであり、プレーヤーだけでなく、レフリーも観客も関係者すべてが、追求し努力することを求められています。それらの一つ一つは他のスポーツでもとりあげられていますが、五つセットにして掲げられていることによって深さと豊さを増し、ラグビーの identity 独自性の源泉となっています。

尚、補足資料として 西川ラグビーコラム「[カティサーク炎上について思うこと](#)」2007/05/26を参照されることを提示しておきます。

2007. 07. 23
西川 義行